

コールセンター Q&A

～ コールセンターによく寄せられる質問についてご紹介します ～

Q105

百日咳菌抗体(EIA法)を依頼しましたが、結果報告書にはPT-IgGとFHA-IgGの2種類の抗体が報告されていました。どのように解釈したら良いでしょうか。

A105

百日咳菌抗体(EIA法)はIgG抗体を検出する検査で、小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017にて診断フローが改訂されてIgA抗体、IgM抗体が保険適用されるまでは、第一選択の百日咳抗体検査でした。

しかし、現行のガイドラインでは、IgM抗体、IgA抗体がいずれも陰性の場合に百日咳菌抗体(EIA法)を測定することになっています。また、以前は百日咳菌抗体(EIA法)にて抗体価が100EU/mL以上であれば、「百日咳確定」でしたが、現行ガイドラインでは「百日咳の可能性は高いが確定できない」に変更されています。(総合検査案内2018 77ページ参照)

百日咳菌抗体(EIA法)では、以下の2種類の抗体価を報告しています。

抗体名	特 徴
PT-IgG	百日咳菌毒素に対する抗体で特異性が高いため診断に用いる。
FHA-IgG	菌体表面の抗原に対する抗体で他の細菌にも存在し特異性が低い。

上記より、臨床診断にはPT-IgGの検査結果にて判断します。ただし、ワクチンにはPTとFHAが共に主要抗原として使用されていることから、ワクチン接種による効果判定にはPT-IgG、FHA-IgGにて判断します。

< 検査のご案内 >

検査項目	検査方法	基準範囲(単位)	検体量(mL)	容器	保存	所要日数	実施料	判断料
百日咳菌抗体	EIA	PT-IgG 10未満 EU/mL FHA-IgG 10未満 EU/mL	血液 3.0	X	室温	2~5	272	144 (免疫)

担当 生化・免疫係

*ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

< 広報委員 > 谷敷 圭美 / 石田 啓 / 枡本 健 / 大田 彩咲日